

研究主題

文学的文章を読む力，活かす力を身に付ける 国語科指導法の研究（1年次）

阿久根市立折多小学校

目次

I 研究の構想	-----	2
1 主題設定の理由		
2 研究主題についての考え方		
3 研究の仮説ならびに研究内容		
II 研究の実際		
研究内容1について		
1 指導事項，重点指導内容の明確化	-----	5
2 一単元の指導計画の工夫・改善		
3 一単位時間の学習過程の工夫・改善		
研究内容2について	-----	8
1 読むことに活かす活動		
2 書くことに活かす活動		
3 読書に活かす活動		
4 設営・環境の工夫		
III 研究の成果と課題	-----	10

【引用・参考文献】

- 学習指導要領解説国語編 文部科学省
- 初等教育資料・2013年5月号 文部科学省
- 鹿児島県総合教育センター平成22年度長期研修報告書
「習得した知識・技能を活用する力をはくぐむ国語科指導の在り方」
－ 文学的な文章の指導における言語活動の工夫を通して － 芝 智史
- 国語授業を変える「用語」 白石 範孝 著
- 授業のユニバーサルデザイン Vol 1～5 東洋館出版社

I 研究の構想

1 主題設定の理由

(1) これまでの研究から

本校では、これまで、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」をもち、主体的に生きる折多の子どもを育てるという学校教育目標を基に、国語科を中心に次のような言語活動の研究を行ってきた。

- ・ 指導と評価の一体化を図る一単元の指導計画
- ・ 言語活動を意識した一単位時間の基本的な学習過程の工夫・改善
- ・ 基礎学力向上に向けた取組

研究を進めていく中で、平成24年度「基礎・基本」定着度調査において四教科すべての平均点が県平均点を上回った。また、平成24年度全国学力・学習状況調査においても国語A、算数A、算数Bとも全国平均を上回り、これまでの取組によって一定の成果が現れたと言える。

(2) 児童の実態から

しかし、主に活用力を問う全国学力・学習状況調査の国語Bにおいては、全国平均を下回った。また、全学年が取り組んでいる学力検査NRTの国語の結果を分析してみると、次のような課題が浮かび上がった。

- 国語Bの正答率が高い子どもは、国語Aの正答率も高い。しかし、国語Aの正答率が高くても、国語Bでは正答率が大きく下がる子どもがいた。
- NRTでは4つの学年の文学的文章の正答率が説明的文章よりが低い。また、2つの学年で全国の平均正答率に達していない。また、多くの学年で場面の様子や気持ちを読み取る力が毎年のように課題として挙げられている。
- 学級の子どもたちの学力差は、学年が上がるほど大きくなっている。

以上のことから、基礎的・基本的な学力にとどまらず、活用する力を付ける指導法や言語環境について、国語科の文学的文章を中心に研究する必要があると感じた。

2 研究主題についての考え方

- **文学的文章を「読む力」とは**、教科書に掲載されている教材文だけでなく、初めて読む文章や長い文章を、目的に応じて主体的に読み、書かれていることを「読み方」（読みの知識・技術）を基に分析・解釈し、そのことを基に自分の考えを表現することを指している。

- **「活かす力」とは**、教科書に掲載されている教材文を読むことを通して育んだ興味・関心・態度、習得した知識・技能を活かし、次の3つの場面で主体的に活用し、問題を解決する力を指している。

- 作品の読み取り（分析・解釈）へ活かす
 - ・ 習得した「読み方」（読みの知識・技術）で、新たな物語を読み味わう。
- 表現へ活かす
 - ・ 読み深めたことが伝わるように音読や朗読を工夫する。

- ・ 優れた表現を参考にして書いたり，書いたことをお互いに話したり聞いたりする。
- 読書に活かす
 - ・ 同じ作者や同じテーマ，種類の物語を複数読む。
 - ・ 読んだ物語について，お互いに感想などを伝え合う。

3 研究の仮説ならびに研究内容

仮説1 文学的文章の指導事項を基に，読む力，活かす力を付けることをねらいとした単元を貫く言語活動や指導計画，学習過程を段階的・系統的に工夫すれば，子どもたちは主体的に読み深め，学んだことを活かす力を身に付けていくのではないかと



研究内容1

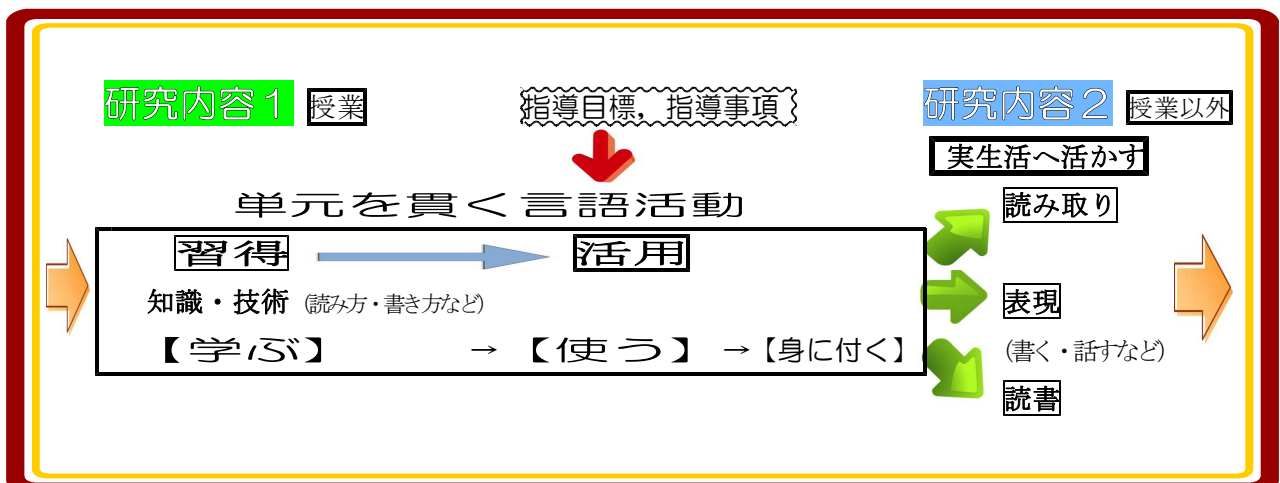
- 1 指導事項，重点指導内容の明確化
- 2 一単元の指導計画の工夫・改善
- 3 一単位時間の学習過程の工夫・改善

仮説2 読む力，活かす力を付けることをねらいとした言語環境を意図的・計画的に整備すれば，子どもたちは授業以外においても主体的に読み深め，学んだことを活かす力を身に付けていくのではないかと



研究内容2

- 1 読むことに活かす活動
- 2 書くことに活かす活動
- 3 読書に活かす活動
- 4 設営・環境の工夫・改善



【研究のイメージ図】

Ⅲ 研究の実際

研究内容 1 について

1 指導事項の明確化

(1) 学年系統表の作成

まず、各学年の文学的文章において、子どもたちにどのような力を身に付けるのか、どのような姿を目指すのか、学習指導要領の指導目標、指導事項を基に学年系統表にまとめ、指導の重点化、焦点化を図ることにした。

低学年	中学年	高学年
<ul style="list-style-type: none">○ 書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げながら読む子ども・ 場面の様子について登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む・ 文章の中の大事な言葉や文を書き抜く。	<ul style="list-style-type: none">○ 目的に応じ、内容の中心をとらえたり、段落相互の関係をとらえたりしながら読む子ども・ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて叙述を基に想像して読む。	<ul style="list-style-type: none">○ 目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む子ども・ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめる。
<ul style="list-style-type: none">○ 楽しんで読書をしようとする子ども・ 楽しんだり知識を得たりするために本や文章を選んで読む。	<ul style="list-style-type: none">○ 幅広く読書をしようとする子ども・ 目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読む。	<ul style="list-style-type: none">○ 読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする子ども・ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読む。

(2) 「単元を貫く言語活動」ガイドブックの作成

単元を貫く言語活動は、指導目標を達成するための手段である。また、習得した知識・技能を主体的に活用することによって、より確かに定着させる活動である。つまり、単元を貫く言語活動は、わたしたちが研究する「活かす力」を付ける柱となる活動と言える。また、子どもたちにとっては「なぜこの教材文を読むのか」という動機付けになる。

したがって、各学年の指導目標、指導事項を基に、それぞれの単元でどのような単元を貫く言語を設定するのかということが大切である。

そこで、単元を貫く言語活動を改めて振り返り、子どもたちに力を付け、子どもたちが主体的に取り組めると考えられる活動をまとめることにした。

<p>1 単元目標 友情物語を推薦しよう</p>	<p>1 単元目標 椋鳩十さんの作品を紹介しよう</p>
<p>2 単元名 「のどがわいた」</p>	<p>2 単元名 「大造じいさんとガン」</p>
<p>3 指導事項 ウ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ優れた叙述について自分の考えをまとめること。 カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。</p>	<p>3 指導事項 ウ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ優れた叙述について自分の考えをまとめること。 カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。</p>
<p>4 単元を貫く言語活動</p> <p>○ 内容 本を読んで推薦の文章を書くこと（C読むことエ）【ミニ推薦文】</p> <p>「のどがわいた」の学習を活かして、関連図書の推薦文を書く。</p> <p>○ 指導計画の工夫、留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> 登場人物の関係図をかくことによって、読みを深めさせるとともに、図をかく良さにも気付かせる。 自分の体験を振り返って書かせる段落を設定する。 推薦文の中で使わせたい言葉は、ワークシートに明記する。 <p>※ 補助教材 教師のモデル（ミニ推薦文） 関連図書「しずく的首飾り」「きみに贈るつばき物語」など</p>	<p>4 単元を貫く言語活動</p> <p>本を読んで推薦の文章を書くこと（C読むことエ）【紹介カード】</p> <p>○ 内容</p> <p>椋鳩十作品を選び、紹介カードに書いて交流する。 紹介する主な内容は「中心人物」「あらすじ」「表現の工夫」「主題」「自分の考え」とする。</p> <p>○ 指導計画の工夫、留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> 「大造じいさんとガンが名作と言われる理由は何か」というテーマを基に、「中心人物」「あらすじ」「表現の工夫（情景、色彩語など）」「主題」「自分の考え」を読み取らせていく。特に表現の工夫に注目させる。 事前にお互いの紹介カードを相互評価させることを伝え、目的意識や相手意識を高める。 椋鳩十作品の並行読書を行わせる。 学んだ表現の工夫は日記や作文など活用させる。 <p>※ 補助教材 教師のモデル（紹介カード）、椋鳩十作品</p>

【「単元を貫く言語活動」ガイドブック（各学年、各単元ごとの単元を貫く言語活動例）】

(3) 「読み取りの5つのカギ」、文学的文章に関わる「用語」のまとめ

これまでの文学的文章の指導では、場面ごとの詳細な読み取りに偏り、単元の終末である活用場面において十分な時間が足りなくなることがあった。また、他の物語文では、読み取りの力が十分に発揮されないこともあった。

そこで、単元を貫く言語活動を柱としながらも、どの文学的文章においても指導したい知識・技能を「読み取り5つのカギ」としてまとめた。また、「読み取りの5つのカギ」に関連した「はじめ・中・おわり」「地の文」「中心人物」「主題」など文学的文章に関わる用語についても学年ごとに整理した。これらを繰り返し指導していくことによって、子どもたちができるだけ自力で文章を分析・解釈できるようになると考えた。

【読み取りの5つのカギ】① 設定 ② 視点 ③ 中心人物の変化 ④ 表現の工夫と効果 ⑤ 主題

学年を通して指導する 活かす力を付ける 読み取り5つのカギ

1 設定

- いくつかの話が(時代、季節、時間など)、どこで(場所)、だれが登場するか(登場人物)をつかむことは、物語文を読み進める上で土台となる。
- 上学年の作品になると、登場人物の人物関係図を書くことになりやすくなる。
- 作品の冒頭部分には、場面や登場人物の説明が書かれているので、整理しながら読むことが大切である。
- 場面の様子は、地の文をていねいに読んで想像する。

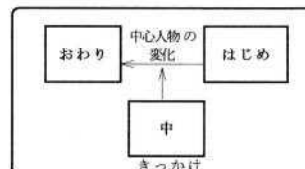


2 視点

- 物語文はだれかの目と心から語られており、そのだれかが中心人物である。地の文を読むと視点が変わり、読者はその登場人物に寄り添って読み進めていく。
- 途中で視点が変わることがあり、そこには作者の特別な意図がかくされているので、ていねいに読む。

3 表現の工夫と効果

- 作者は読者を作品の世界に読者を引き込むために、様々な表現の工夫をしている。工夫に気付くと、豊かに読んだり、書くことに活かしたりすることができる。
- 表現技法の名前を覚えることと合わせて、その効果や意味を考えながら読むことが大切である。
- 題名にも作者の思いがこめられている。
- 大きく「登場人物の名前」「出来事(事件)に関連したもの」「主題に関連したもの」の3つに分けられ、読み進める上でのヒントとなる。
- 物語文の構成は、「はじめ・中・おわり(結び)」に分けることができる。
 - ・ 「はじめ」には、場面や登場人物の説明などの設定が書かれている。
 - ・ 「中」では、何からの出来事(事件)が起こる。
 - ・ 「おわり」では、出来事(事件)によって、中心人物の心情が「はじめ」と大きく変わる。
- ※ ファンタジー作品では、「現実→入り口→非現実→出口→現実」の構成にも気を付ける。



4 中心人物の変化

- 中心人物の変化は、作者が作品を通して読者に伝えたいメッセージにつながる。
- 登場人物の気持ちや人物の性格、人がらは「□…したこと・行動、△…会話、◇…その他、○…表情、□…情景」【しかのひじ】から読み取ることができる。
- 中心人物の変化は、特に「中」で起こる出来事(事件)に大きく関わっているので、くわしく読む必要がある。
- 中心人物の変化のきっかけが分かると、図示することができ、物語をあらすじを一文で表すことができる。
- (例・～と思っていた～が、～によって、～になる話)



5 主題

- 物語文が自分に最も強く語りかけてきたことを主題とする。学年が上がるにしたがって、主題を強く感じさせる作品が多い。
- 主題は明示されていないので、特に中心人物の変化から考える。
- 中心人物の変化から主題を自分なりに考え、交流することが大切である。「自分なりに」とあるように主題に正解はないが、何でもよいということではない。
- 主題は一般化した抽象的な言葉で表す。

【読み取り5つのカギ】




各学年の指導事項のポイント (文学的な文章の解釈)	1 年 教材文 単元を貫く言語活動とポイント	新出用語 繰り返し確認していく	活用 読書へ、日記などへ
○ 場面の様子について	● はなのみち 【音読発表会をするために、場面の様子や登場人物について読み取る。】 ○ 挿絵のならばかえなどで、話の流れをつかむ。 ○ 場面の様子や登場人物のしたことをつかむ。 ○ 発音に気を付けて、音読をする。	○ 音読(声に出して読むこと) ○ さし絵(かかれていた絵)	
○ 登場人物の行動を中心に	● おむすびころりん 【音読発表会をするために、場面の様子や登場人物について読み取る。】 ○ 挿絵のならばかえなどで、話の流れをつかむ。 ○ 音読の仕方を記号を書きながら工夫する。 ○ 一人で読んだり、複数で音読したりする。	○ わかし話 (昔の人の暮らしの中から生まれたお話) ○ 音読記号	読書 ○ わかし話
○ 想像を広げながら読む	● 大きなかぶ 【音読発表会をするために、場面の様子や登場人物のしたことを読み取る。】 ○ 挿絵のならばかえなどで、話の流れをつかむ。 ○ 場面の様子や登場人物のしたことをつかむ。 ○ 動作化をしながら音読する。	○ 登場人物 (話したり動いたりする人や動物) ○ 会話文(話した言葉の文) ○ 地の文(物語で会話以外の文) ○ 語り手・ナレーター (地の文を話している人)	読書 ○ 外国のわかし話
○ 文章の中の大事な言葉や文を書きぬく	● ゆうだち 【ミニ感想文を書くために、場面の様子や登場人物のしたことを読み取る。】 ○ 場面の様子や登場人物のしたことをつかむ。 ○ 話の好きなところを書きぬく。 ○ 思ったことや自分と似ている思ったところを書く。	○ 場面 (物語の中で人物のすることや周りの様子 がひとままとまりになっている部分) ○ 感想(心の中で思ったこと)	
○ 楽しんで読書をする	● くじらぐも 【音読発表会をするために、場面の様子や登場人物の気持ちを読み取る。】 ○ さし絵にふき出しを書く。 ○ 音読の工夫をする。 ○ 工夫をする理由を書く。	○ 題名 ○ 作者(おはなしを作った人) ○ 物語文 ○ ふき出し	読書 同一作者の作品 日記 ○ ミニ手紙文(～さんへ、～より) □ 「」を使う。
	● ずっとずっとだいすきだよ。 【本の紹介カードを書くために、好きなところを中心に読んでまとめる。】 ○ 好きな言葉や文を書きぬく。 ○ 書きぬいた理由を書く。 ○ 自分の経験から感想を書く。○登場人物に言っていたことを書く。	○ 訳す (外国語の文章を日本語に直す人) ○ 訳者 (訳した人)	日記 ○ 好きな物語の紹介
	● たぬきの系車 【紙しばいを作るために、場面の様子や登場人物の気持ちを読み取る。】 ○ 書かれていない気持ちや言葉、場面のさし絵を考える。 ○ 考えた理由を書く。		読書 ○ わかし話 日記 ○ 読んだ物語の紹介
	● だてでだてのおばあさん 【本の紹介カードを書くために、好きなところを中心に読んでまとめる。】 ○ 登場人物の行動を場面ごとにまとめる。 ○ 場面ごとに好きな言葉や文を書きぬく。 ○ 書きぬいた理由を書く。		読書 日記 ○

【文学的文章に関わる「用語」のまとめ】

2 一単元の指導計画の工夫・改善

子どもたちに文学的文章を
読む力、活かす力を付けることを
重視した指導計画を作成した。

	主な学習活動	指導上の留意点
単元前  【学習準備】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 初発の感想を書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ あらすじを一文で書くと… ・ 登場人物について思ったこと ・ 不思議、疑問に思ったこと など ○ 音読練習を始める。 ○ 並行読書を始める。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">この本を読みたいなあ。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元に入る一週間くらい前に書かせる。 ○ 子どもの実態を把握し、指導計画を立てる。 ○ 初発の感想は、1枚のプリントにまとめ、後で全員で共有できるようにする。 ○ 単元に入る前から繰り返し音読させる。 ○ 読めない字には、読み仮名を付けさせる。 ○ 関連図書（同じ作者、同じテーマ）を教室に準備し、学級担任や司書補によるブックトークなどで紹介する。

学習過程	主な学習活動	指導上の留意点
つなげる	<ul style="list-style-type: none"> ○ これまでの文学的文章を振り返り、比べる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px;">こんなことを学習したなあ。今度の物語でも活かせそうだ。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学んできた読み方や体験した言語活動を振り返らせる。 ・ これまでの言語活動で表現したもの ・ 「読み取りの5つのカギ」 など ※ 前学年の教材文を使うこともある。
つかむ 見通す <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">導入の工夫 興味・関心</div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の目標「チャレンジ」と学習計画をつかむ。 <p>最後にこんな活動をするから、教科書の物語を読んでいくんだ。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px;">おもしろそうだ。やってみよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元を貫く言語活動で表現するモデルを見せイメージや学習するよきをつかみ、意欲をもたせる。 ○ 初発の感想を共有する。 ○ 単元を貫く言語活動は単元の目標として強く意識できるように、学習計画表と合わせて大きく掲示する。
↓ 調べる 深める <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">活用につながる 読み</div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の目標につながる読む力、書く力を教材文で付けていく。 <p>こんな言葉や文に気を付ければ、登場人物の気持ちや性格がよく分かるんだな。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px;">他の作品を読むときにもこの読み方が使えそうだ。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元を貫く言語活動「チャレンジ」につながる活動を行う。 ○ 主に「読み取り5つのカギ」に基づき、読み取らせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">① 設定 ② 視点 ③ 中心人物の変化 ④ 表現の工夫と効果 ⑤ 主題</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 交流を通してお互いの考えを広げたり、深めたりする。
↓ まとめる <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">習得したことの 確認 チャレンジへ つなぐ</div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 読み取ってきたことをまとめる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px;">この物語でいろんな力がついたなあ。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「活かす」活動を前に、一文あらすじ、身に付けた「読み方」、おわりの感想などについてまとめる。 ○ おわりの感想を初発の感想と比べることにより、読みの深まりを実感させる。 ○ 今後、活用できるように読み方をまとめる。
↓ 活かす <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">習得した 知識・技能を活かす 相互評価</div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教材文で身に付けた力を活かし、言語活動「チャレンジ」を行い、交流する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px;">相手に伝わるように工夫して書こう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ この段階で活用できる力を身に付けさせておくことが大切である。 ○ 書くときに使わせたい言葉を提示する。 ○ 表現したものについて、お互いに感想を伝え合わせる。
↓ 振り返る <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">付いた力の自覚</div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己評価カードで学習を振り返り、今後の見直しをもつ。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px;">これからも学習したことを役立てよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身に付いた力を確認し、称賛する。

事後 継続化	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学んだ表現の工夫を活かして、日記や作文を書く。（例・意見文を書こう、「比喻」を日記のどこかに使って書こう など） ○ 関連図書を読むことを継続する。 ○ 読む力を活かして、初読の文学的文章のドリルに取り組む。
-----------	--

【一単元の基本的な指導計画】

3 一単位時間の学習過程の工夫・改善

一単元の指導計画を受けて、一単位時間の学習過程の工夫・改善を次のように行った。

学習過程	主な学習活動	指導上の留意点
つかむ 見通す	1 前時までの学習を振り返る。 2 めあてをつかむ。 3 音読をする。 4 学習の進め方を確かめる。 ・ 学習内容 ・ 学習形態 ・ サイドラインのきまりなど	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元を貫く言語活動「チャレンジ」を毎時間意識させる。 ○ めあては、問題解決型の文章にし、視点が焦点化されるように工夫する。 ○ 考えたい、話し合いたいという意欲を高める。 ○ 必要に応じて、学習場面について全員で確認したいことをおさえる。 ○ 最初は例を示し、一斉に指導することも考えられる。
調べる	5 学習課題について調べる。 【一人読み】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 交流を前に全員が自分の考えを書けるようにする。 ○ 読み取ってはいても書けないということがないように、書き方を示す。 ○ ヒントカードを準備することもある
深める	6 ペアやグループで話し合う。 ・ 1・2年生はペア、 3年以上はグループを基本とする。(3・4人) 【ペア・グループの交流】 7 全体で話し合い、考えを広げ、深める。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 話し合いは、お互いの考えが広がり、深まるように作成した「話し合いカモンカード」にそって進めさせる。 ○ 考えだけではなく、理由や根拠を発表させる。 ○ 子どもたちの発言やまとめを予想し、めあてに迫る発問を考えておく。
まとめる 活かす	8 学習課題についてまとめる。 9 音読をする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定型文を示してまとめさせる。 ○ めあてに対するまとめと合わせて、習得した読み取り方を確認し、他の物語でも使える読み方であることをおさえる。
振り返る	10 自己評価を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 読み取り方、話し合いを振り返る項目ならびに単元を貫く言語活動「チャレンジ」を意識する項目を入れる。 ○ 次時までにコメントを書いて返却する。また、指導に役立てる。

【一単位時間の学習過程（「調べる」「深める」段階）】

研究内容2について

1 読むことに活かす活動

(1) 「新・音読カード」の取組

文章を理解する上で、まずは読めることが大切である。そのためには、繰り返し読むことが必要である。そこで、授業の時間と合わせて、家庭学習においても音読カードを使って、読む回数確保した。また、子どもたちが目的をもち主体的に取り組み、音読の技術が向上するように「はっきり読み」「すらすら読み」「スピード読み」など毎日めあてを決め、自己評価ができるようにした。

(2) 語彙力を付ける取組

① 漢字前倒し学習、「漢プリ」

文章を読むとき、または書くときに漢字をどれだけ習得しているかは活かす力に大きく関わる。そこで、漢字の習得に向け練習する期間を十分に確保するために、3年生以上は当該学年で学習する漢字を4月中に全て指導し、その後何回も繰り返し練習する方法である漢字前倒し学習に取り組むことにした。また、単元末テストに合わせて、朝の活動「パワーアップタイム」や家庭学習においてミニ漢字プリント「漢プリ」に取り組ませている。

② 辞書活用の推進

習得している言葉がどれくらいあるかという語彙力は、思考力や表現力に大きく関わると思

われる。そこで、本校では3年生になると、全員が自分専用の辞書を購入し、調べた言葉が掲載されているページに付箋を付けるという取組を続けている。

③ 「言葉の意味」マスタープリント

文学的文章の中に出てくる言葉の中で意味が分かりにくいと思われる言葉を取り上げ、1枚のプリントにまとめ、単元と並行して取り組ませることによって、語彙力や表現力の向上を図った。

2 書くことに活かす活動

(1) 日記指導の工夫

子どもたちが毎日のように書いている日記の中で、授業で学習した様式（感想文、紹介文、意見文、詩、俳句など）や表現技法（書き出しの工夫や比喻、反復など）に取り組ませ、表現の工夫に関わる知識・技能の習得と活用を目指している。

(2) 書く機会の意図的な設定

思考力・判断力・表現力を付けるためには、日常的に書く活動を増やしていくことが大切だと考えた。

- 行事後のミニ作文 ○ 全校朝会のミニ感想（「聞く力」カード）
- 俳句 ○ ひまわりの観察記録 ○ 新聞社への投稿
- 各種コンクールへの積極的な応募

（南日本作文コンクール、人権作文コンクール、新聞よむのびコンクール、かわなべ青の俳句）

- 各種標語（あいさつ標語、人権標語、防犯標語、県民週間標語）

3 読書に活かす活動

(1) 「おすすめ本」の取組

すべての子どもたちの読書の量と質を高めるために、図書室にある関連図書の中から、当該学年で必ず読んでほしい本を「おすすめ本」として10冊を担当が選定し、教室に常備した。「おすすめ本」の感想は、廊下の掲示版に貼り付け、お互いの考えを交流できるようにした。また、「おすすめ本」は単元の並行読書として取り上げたり、読み聞かせやブックトークをしたりすることによって読書意欲を高めるようにした。

(2) 読書に親しむ活動

① 「朝読書」の時間

様々な種類の本をたくさん読ませるため、全学年、年間読書冊数100冊を設定している。また、週4回、1校時前の10分間を「朝読書」の時間とし、一人一人が読みたい本を読んでいる。また、週1回の「図書の日」は学年ごとに決められた曜日に図書室へ行き、図書の返却と貸し出しを定期的に行っている。

② 読書月間、読書旬間の活動

読書月間（10月）、読書旬間（6月、2月）では、職員や図書委員会の子どよる出張読み聞かせ、子ども同士の「読書ゆうびん」、「読書ビンゴ」など読書の楽しさを味わわせる活動を年間を通して設定している。

③ 「ぐりぐら会」との連携

読書ボランティアグループ「ぐりぐら会」の保護者の方々とPTA研修部の保護者が定期的に読み聞かせに来てくださる。

4 設営・環境の工夫・改善

「子どもたちが見る設営」「子どもたちのためになる設営」を心掛け、言語環境の工夫・改善を行った。



【子どもたちの俳句コーナー】



【階段に掲示した敬語コーナー】

Ⅲ 研究の成果と課題

1 研究内容1について

- わたしたちが文学的文章で何を指導すべきか、どの用語を取り上げる段階なのか明確になってきたように思う。
- 子どもたちが教材文を読む目的を意識しながら学習している姿、お互いの考えを交流する中で考えが広がったり深まったりする姿がうかがえるようになった。
- △ 単元の中の「活かす」段階で、本来はできるだけ自力で進めさせたいが、個人差が大きいことがある。毎時間の手立ての工夫が必要であると感じた。
- △ これまでの場面ごとの詳細な読み取りを行う授業から改善されてきているが、だからといって大まかすぎる読み取りにならないかという懸念もある。
「読み取り5つのカギ」を基にした読み取りは、今後も研究を深めていく必要がある。

2 研究内容2について

- 文学的文章の音読を単元の学習が始まる前から繰り返し読むことによって、長文への慣れや音読技術の向上がうかがえる。
- どのような文章を書くときでも、読み手を意識して、表現の工夫をしようとする子どもたちが増えてきたように思う。
- △ 「おすすめ本」の取組によって、より関連図書に興味をもつ子どもたちが増えてきたが、以前からあまり本を読まない子どもたちは「おすすめ本」にも興味をもたないことが多い。